

ソーシャルキャピタルに着目した 地域防災力向上方策

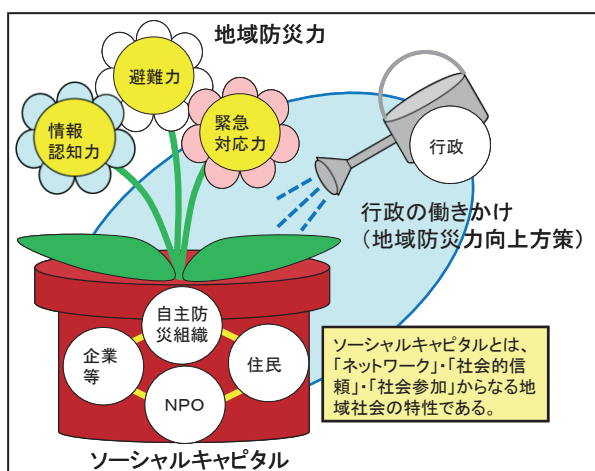


危機管理技術研究センター 土砂災害研究官 吉川 知弘
地震防災研究室 主任研究官 宮武 裕昭

(キーワード) ソーシャルキャピタル、地域防災力

1. ソーシャルキャピタルと地域防災力

災害に関する知見や経験、災害に備えた物資備蓄や人材・組織育成、発災後の避難や救護などの対応力を花や果実とすれば、花が育つ土壌がソーシャルキャピタルであり、行政は水やりや施肥という形でソーシャルキャピタルを介して植物を育



てる行為と考えられる。

本調査では行政（施設管理者）が所管施設に関する防災力を向上させるために住民等に働きかけをする際に中間に介在した組織の働きに着目した。

2. 地域防災力向上における中間組織

調査対象とした中間組織は、事業の実施・推進そのものを目的として設立された協議会等の組織ではなく、本来は他の目的のために存在していた組織が仲介の役割を果たし、かつ継続的に活動を行っている事例を対象とし、全国で先進的な19事例を調査し、以下のような代表的なモデルを設定した。

モデル1 まちおこしや教育等の活動をしているキーパーソン（組織）に働きかけ、新たな活動分野として防災力向上への取組みを促す

モデル2 高度な知識とノウハウを有する学識経験者等が先行して地域で活動している場合に、追従・協働して取組みを促す

モデル3 自治会連合会のような地縁が強く機能している地域において、既存のネットワークを有効利用しながら取組みを促す

それぞれのモデルにおいて初期、発展期、成熟期におけるシナリオを想定し、留意点を整理した。

例えばモデル1では、初期においてはキーパーソンに対する基礎情報の提供が、発展期には職員の異動時の引き継ぎ等、継続性の確保が重要となる。モデル3では組織の発展・成熟において市町村の役割が重要であり、複数の市町村をまたぐような事業の場合は地域によって格差を生じてしまうことが多いといった、事業特性とも相関があることが分かった。

3. まとめと今後の課題

中間組織がソーシャルキャピタルとして機能している先行事例を類型化することで、施設管理者がより効率的に地域防災力を向上させるための中間組織への働きかけ方法が、事業種別、地域特性とある程度の関連性を持って整理することができた。さらに中間組織との関係性維持にあたってのノウハウを盛り込むことで、ソーシャルキャピタルを利用した地域防災力向上のためのガイドラインを作成する予定である。